

## 「海外・帰国」あれこれコーナー：海外の保護者のために

# 海外・帰国 あれこれコーナー

このコーナーでは、いろいろな立場の人たちの声を聞きながら、特に海外に住んでいる保護者の方々に役立てていただける情報や、参考になる考え方などを提供していきます。

取り上げてほしいテーマ、ご意見、ご感想などをお知らせください。皆様の声を聞きながら、このコーナーをできるだけ実際に役に立つものにしていきたいと思っています。連絡は、Eメールで、[sasa@keimei.ac.jp](mailto:sasa@keimei.ac.jp) までお願いいたします。



佐々 信行  
さっさ のぶゆき

啓明学園初等学校 校長

ハンブルク補習校、帰国子女受け入れ担当（横浜市）、日本語イマージョン・プログラム教諭（バージニア州）、ワシントン補習授業校を経て、現職。

啓明学園 初等学校・中学校・高等学校  
国際教育センター  
〒196-0002 東京都昭島市拝島町 5-11-15  
電話：042-541-1003  
ホームページ：www.keimei.ac.jp  
Eメール：kokusai\_info@keimei.ac.jp

### 「弱くなる子どもたち」

#### ◆ ついに恐れていたことが

綱引きは日本の運動会のプログラムの定番です。今年、綱引きの練習をしていた時、いつかは起きるのではないかと恐れていたことがついに起きました。ある子どもたちが、「綱は臭くて気持ちが悪いからさわりたくない」と言い始めたのです。化学製品などのおかげで、生活の中でいやな臭いを体験することはとても少なくなりました。清潔な生活に慣れた子どもたちは、少しの不快な臭いにも耐えられなくなってきているようです。この子たちが親になった時、赤ちゃんの便の世話などをちゃんとしてあげることができるだろうかと心配になりました。

啓明学園では、1年生のときから、畑で作物を育てたり、生き物の世話をしたりする機会が多く、土においなどには親しんでいるのですが、それでもこんなことが起きるような時代になったのです。もっとも、綱をさわるのはいやがった子たちも、土や虫をさわるのは平気です。

先日、都心の学校を訪ねたところ、校庭の砂が風で飛ぶことに近所からの苦情が多いということで、校庭は人工芝とゴムの舗装で覆われていました。家でも学校でも、ほとんど土を見ることのない環境の子どもたちは、土にさわることさえ抵抗があるかもしれません。

夏に「防災キャンプ」がありました。お父さんたち、子どもたちが参加して、地震などの時の避難所になる体育館に泊まりました。日中は暑い日でしたが、夕方から風がでて暑さが和らいできました。扇風機が用意されていたこともあって、私などは、思ったより快適に感じてぐっすり眠りました。ところが、子どもたちの多くは、「暑くてたいへんだった」「眠れなかった」と訴えていました。生まれたときからエアコンのある生活をしてきた子どもたちには、耐え難く感じられたのでしょうか。

修学旅行の帰りの新幹線、和式のトイレが空いていても、子どもたちは洋式の方に長い列を作りました。両足で体を支える姿勢は、慣れない子どもたちにはかなり苦しいのです。この子たちが将来、発展途上国で働くようなことになったら、私たちより大きな困難を感じるようになるでしょう。

昔の子どもなら平気でできていたことができなくなったり、苦しく感じるようになっていたりしているのですから、子どもたちは弱くなっていると言わざるを得ません。文部科学省の体力・運動能力調査でも50m走、立ち幅跳びなどの子どもの運動能力は年々下降しているという結果になっています。最近増えている朝ご飯を食べない子、長時間テレビゲームをしている子が体力や運動能力が低いのは当然です。



4年生の麦刈り